

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教育学研究科・博士3年生

参加プログラム: 国立台湾大学・東京大学合同サマープログラム 派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学は台湾における一番有名な総合研究大学であり、東アジアにおいても有力な大学の一つである。文系の中でリベラルアーツ・カレッジ、法律学部、社会学部などを有する。理系は医学部、工学部、農学部が有名である。文系と理系両方、学部レベルと大学院レベルのコース両方を兼ね備える大学である。

参加した動機

1. 日中両国以外の第三国・地域(台湾)の視点で、日中両国の関係、社会運動、経済と政治などについて、東アジアのあり方、世界との結びつきをもう一度眺め直したいからである。
2. 自分の研究が日中両国の大学教育改革であるが、東アジアというもっと広い視点で、社会のあり方も含めて検討する必要があるため、社会学の知識とフィールドワークをメインにするこのプログラムに参加させていただいた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

中国出身の学生に対して最近の手続きがだいぶ簡素化されたが、写真に対する要求が特に厳しい。必ず解析度が高い、頭から顎までに全体写真の70%程度、全体的なサイズがピッタリしたものを提出することをお勧めする。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

派遣先の事務員がビザ(文化交流活動ビザ)の申請をしてくれるため、そんなに時間がかからなかったが、団体として一括申請してくれるため、プログラムの開始・終了日にち通りに入国・出国することが必要である。例えば、プログラムの開始時間より早い日にちに向こうへ行く予定がある場合、派遣先へあらかじめ報告・調整する必要がある。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学の生協で大学生向けの海外旅行障害保険がいくつか提供されている。価格は約 3500 円から 6000 円前後である。クレジットカードにもともと付いている保険を利用してもかまわないが、念のため、出発する前に保険についての利用案内書、保険の金額などを熟読する必要がある。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

指導教官からあらかじめ留学についての承諾をいただき、推薦状を書いていただく必要がある。また、所属学部当該の留学期間で授業があるかどうか確認する必要がある。英語の成績証明書の発行が時間がかかるので、早いうちに所属学部から発行してもらえるようにするほうが良いと思う。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC(スピーキング/ライティング)、大学院でよく英語で学会発表、論文作成をするので、出発前の英語レベルは大学院レベル程度である。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

簡単な中国語の挨拶をすこし学べるほうがいいかもしれない。また、プログラム関連の資料や連絡方法の更新などほとんどネットで共有するので、ipad かノートパソコンを持っていけばとても便利である。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

政治、社会、経済という三つのトピックを分けて台湾社会・日本社会のあり方を紹介したプログラムである。特に台湾側が用意してくれた講義が主に政治の内容を中心とする。予習の資料の量が非常に大きいため、時間を作って予習することを勧める。

②学習・研究面でのアドバイス

出発前にあらかじめ自分の関心するテーマを検討し、台湾社会の基本知識(例えば、最近のニュース、社会の問題点、主な党派など)を勉強しておいたほうが良いと思う。授業の間で台湾の学生運動など紹介なしで直接議論の環に入る場合もあったため、予習しないと五里霧中になる可能性が高い。

③語学面での苦勞・アドバイス等

講義だけではなく、Q&A の時間も多く設けられたプログラムなので、できるだけ、英語のスピーキング、特に自分の意見をどのように英語ではっきりと伝えるかについて練習しておいたほうが良いかもしれない。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

東京大学の全員が福華国際会館に泊まった。大学までに 5 分間の距離しかない。地下鉄駅にも近くて、とても便利である。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

台湾はやはり蒸し暑くて、虫と蚊が多い。痒い止めを持っていくことを勧める。大きなデパートではないと、クレジットカードをほぼ使えないため、現金を必要な量を持っていくか、カードで現地の ATM で引き出すか、どちらでも構わない。ただし、現地で引き出す場合、手数料は 300 台湾ドルかかるので、ちょっと高い。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安がまあまあいい。天気がやはり蒸し暑いので、日本から風邪薬もすこし持っていくほうが安心である。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:4 万円、授業料と教科書代:なし、ホテル代:8 万 5 千円、食費:1 万 5 千円、交通費:5 千円、娯楽費:5 千円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラムを応募すると同時に、留学生向けの東京大学の奨学金と一緒に応募した。プログラムの内容と紹介のページに奨学金の関連情報を見つけたのである。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

日本人と台湾人の学生と一緒に当地有名なレストランで友達の誕生日パーティを開いた。ほかに、台北市の周りの観光スポットー平溪の古い町並みと淡水の夕日も堪能した。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面:プログラムの初めての二日間で、プログラムの TA がホテルから大学までに案内してくれた。語学面で、授業(英語)以外の場合で英語も大体通じるが、中国語を少し分かれば安心に行かれる。大学の語学サポートは特になし。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館カードを発行してもらったので、自由に入ることができる。ホテルにも授業を行う会議室にも Wifi を常に使える。ホテルの地下一階でジムとプールが付いている。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず、プログラムの内容と授業の形式がとても面白かった。台湾の政治、社会、経済という三つのトピックをカバーしており、授業の間で教員が言っていることを丸ごと暗記するのではなく、自由に質問を出したり、ほかの学生と意見交換することを重んじていた。大学院の授業では、自分は独特な考えを持ってもすぐ質問できないので、最初、授業の形に慣れるまでに時間がかかった。また、ほかの人が自分の考えを納得できるかどうかにも気になっているため、体系的な形で整理しないとすぐに手を挙げられなかった。それと対照にして、台湾のほとんどの学生は、自分の考えていることを積極的に話したり、英語でうまく表現しきれないときにほかの学生から通訳の助けをしてもらいながら、引き続き自分の考えを述べたいという熱心な勉強の姿に驚いた。授業の進捗していく中で、私もやっとなり心理的な葛藤を克服し、考えていることを堂々と言えるようになった。

また、このプログラムは、台湾の学生 2 人、東京大学の学生 2 人という 4 人ずつに一つのグループを構成し、また同じテーマに取り組んで、台湾と東京でそれぞれ英語でプレゼンテーションすることが要求されている。チームワークとリーダーシップがないと、よりよい結果を得られない。博士課程では、一人の作業が多くて、研究でも授業の宿題でもいつも一人でやり遂げる場合が多かった。このプログラムを通じて、何でも一人で背負い込むのではなく、それぞれのグループメンバーの才能をどのように最大限活用して、結束した力で目的に向かうかことの大きさがわかった。また、自分より若い人にどのようにサポートすることもわかった。自分の考えを押しつけるのではなく、他人の言いたいことを十分に聞かせておいて、ほかのメンバーと積極的に交流・相談し、常にプロジェクトの進捗を確認、必要なときにタイミングを見て方向を調整することも要求される。まるで、海の中で一つの船を運転すると同じように、行きたい所を最初

に揃えて、すべての力を合わせて全力で前進すれば一人で運転するより決定的に早いし、楽だけど、途中でお互いの利益に葛藤が生じる場合が少ない。問題解決を後ろに延ばすと、目的地を遠ざける可能性も高い。そのときに強いリーダーが必要である。常にメンバーが何を求めているか、困難があるかどうかについて確認・調整することが必要とされる。今度、自分のグループのリーダーを担当させてもらって、最初にうまく行かなかったが、最後にすこずつサポートの方法を調整し、ほかの人と協力していいプレゼンテーションができただけでなく、たくさんの友達も得た。自分にとって、非常にありがたい経験になった。

ほかに、週末の時間を利用して、グループメンバーと一緒に台北の古い町並み、淡水の夕日も堪能してきた。途中で当地の人にもたくさん話すことができた。それをきっかけとして、台湾の行く前の台湾の文化、台湾人の考え方のステレオタイプを捨てて、台湾に対する新しい印象を形成した。特に、台湾の若い人たちがどのように中国のことを診ているかもわかるようになった。

②参加後の予定

今度のプログラムは、予想以上に収穫したことが多かった。留学の価値は、やはり自分で行ってみないとわからないことが多いような気がする。今度、機会があれば、他の短期留学プログラムにも参加しようと考えている。また、今年すでに博士3年生なので、博士論文の作成を優先させたいが、今後、もし大学へ就職できるとしたら、台湾という視点を含める研究テーマに取り組みたい。プログラムで学んだことを、一つのきっかけになって、今後、より深く台湾のことを知りたい。特に、台湾の学者と積極的に交流し、中国の周りの地域を含めて、より広い視野で自分の研究に励みたいと考える。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加する前にいろいろ悩むかもしれない。学業とか、部活とか、留学より大事だと考えたことがいっぱいあると思うけど、実際に留学してみると、収穫できることが予想以上にたくさんある。他のことを一時にあきらめて行く価値が十分である。

短期留学は観光旅行と違って、現地の学生とたくさんコミットする機会も多いし、授業の予習・復習も必要である。授業の形式はも東京大学のものと異なるので、新しい環境に慣れるには勇気と積極的な態度が必要である。他人と交流することによって、日本人以外の方がどのように物事を考えているかについて捉えなおすことができる。また、留学というのは、外国語で交流しなければならないので、自分がデメリットの立場に置かれるときにどのように対応するほうがいいのか、日本にいるときに比べて心理的にどう違うかについて観察日記を記しておいたほうがいいのかもしい。帰国後、自分の成長をより見やすく、海外で困難にぶつかっても、より積極的に乗り越えられる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
東京大学海外留学のホームページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部文科三類

参加プログラム: 台湾大学・東京大学合同サマープログラム 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 3.公務員

派遣先大学の概要

国立台湾大学は日本植民地時代に設立された旧帝大のひとつで、台湾でもトップの大学です。

参加した動機

今年の春に旅行で訪れた台湾で現地の人にあたかさに触れて、台湾という国についてもっと知りたい、台湾の学生と交流してみたいと思ったことが動機です。また内向的な性格を克服するきっかけにしたいとも考えていました。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

思わぬ抜けやミスがないように、できる限り早めに済ませるように意識して、余裕を持つことが大切だと思います。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取得していないのでわかりません。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行っていません。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険料は3740円で、死亡保障1000万円のついたものに加入していました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に行っていません。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語は得意だと思っていたので特に準備はしませんでした。終わった今では、事前の論文をもっとしっかり読むことで、授業で使われる専門用語などの知識を予めもっとしっかり身につけておけばよかったと思っています。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

パソコンやタブレットなど文書やパワーポイントを編集できる機器は面倒でも持って行ったほうがよりグループに貢献でき、授業のノートもとれてよいと思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

事前に読んでおく英語の論文が三本ほど与えられ、午前中はそれぞれの大学から日台について様々な視点からの講義があり、午後はフィールドワークで実際に企業や機関を訪問しました。

② 学習・研究面でのアドバイス

事前資料はしっかり読めば読むほど授業が面白くなり、積極的に参加できると思います。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

専門用語の多い授業ではいちいち単語の意味を調べていてついていけなくなってしまいました。事前の資料でしっかり調べておくべきだったと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

キャンパスから徒歩15分ほどのホテルに宿泊しました。きれいで居心地のよいホテルでした。部屋ではハンガーを余分に持っていくとたくさん服をかけられて便利でした。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

プログラム中は蒸し暑く、日本の暑さと少し似ていると感じました。大学周辺には夜市と呼ばれる屋台の並ぶ通りがあり、食事はそこで安く済ませられました。主な交通機関は地下鉄のMRTですが、プログラム中の移動はほとんど貸切バスだったのであまり利用しませんでした。お金はすべて現金で二万円ほど持ち歩いていました。日本円はホテルの部屋に金庫がなかったのでスーツケースに入れて鍵をかけて保管していました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くはないと思いましたが念のため一人での外出は控えました。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
費用はすべて合わせて約17万円でした。航空賃が約6万円、ホテル代が約8万円、娯楽費が約3万円でした。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
このプログラムの要項についていたJASSOの奨学金6万円を受給しました。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末は台湾の観光地を巡り、十分に雰囲気を楽しみました。授業後の夕飯はプログラム参加者と一緒のいろいろなところへ食べに行き、親睦を深める良い機会となりました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

すべての面において十分なサポートをしていただきました。特にTAのお二人には学習面や語学面でとてもお世話になりました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館の利用カードが支給され、貸し出しはできませんが中に入って資料を読むことができました。また大学内の無料Wi-Fiも使用できました。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムでは台湾の視点から日本や中国を見ることができたのが大きな収穫だったと感じています。日本にいて勉強しているだけではどうしても偏りがちな視点を、実際に台湾に行って学ぶことで新たな視点を得て、さらに広げられたと感じています。

また、ここで出会った友人たちから様々な面で刺激を受けたこともとてもよかったと思います。日台関わらず、彼らの鋭い考察力や、自分の意見を組み立てる力、問題に対する意識、それを英語で相手に伝え、相手の反応をしっかりと受け取る能力など、自分の至らない点や力不足を痛感する日々で、自分も早く追いつけるように頑張らなければならないと強く感じました。そのような友人を得たことはこのプログラムから得た何にも代えがたい宝物です。彼らとの交流を通して自分の語学勉強のモチベーションが明確になり、これからの自分に大変良い影響を与えてくれたと感じています。

② 参加後の予定

英語と中国語の勉強に力を入れるとともに、それらを使って伝えるべき自分の考えを作りたいと考えています。このプログラムでは楽しいことばかりでなく、つらく悔しい思いもたくさんしたので、それを返上するべくまた別のプログラムを探して参加したいと考えています。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加する目的、参加した際の目標は、事前にしっかり考えて固めておいたほうが何倍も楽しめると思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありませんでした。

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部前期課程文科一類一年

参加プログラム: 2014年第2回奨学金付き夏季短期留学プログラム国立台湾大学・東京大学合同サマープログラム
派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・**会計士**等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学は台北市内にある大学で、台湾最高峰の大学である。本プログラムにおいて外部への訪問以外は、主に国立台湾大学の社会科学院の建物内で行われ、レクチャーやディスカッションが行われた。

参加した動機

大学生活の早い段階で海外に出て外国人と交流を行うことで、日本では得られない視点や価値観を得ようと思ったから。また、来年での長期留学も考えているので、それに向けて弾みをつけようと思ったから。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
留学を考えているのなら、早いうちから Go Global 等のサイトを定期的にチェックするべき。また、TOEFL や IELTS などのスコアを求められることが多いので、早めにとっておくことをオススメする。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
必要なかった。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特に苦労は無かった。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
三井住友海上火災保険で加入した。すぐに加入できたので特に苦労は無かった。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
申請書類を丁寧に記入し、提出した。また、教養学部前期課程の履修プログラムに支障が無いか確認した。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
特にしなかった。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
留学先の人と連絡が取れるのなら、留学前から連絡を取り、仲良くなっておくのと更に楽しめる。

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前には台湾・中国などの政治・経済・文化などに関するレクチャーを受け、午後は様々な場所に訪問し、お話を聞かせて頂いた。最後には班ごとにプレゼンを行った。
- ②学習・研究面でのアドバイス
レクチャー・訪問共に、事前に調査し知識を頭に入れておくのとより実りのある学習となる。特に英語力に自信の無い人にはオススメする。
- ③語学面での苦労・アドバイス等
英語力に自信が無くても、とにかく伝えるまで話すことが重要。それが英語上達の近道だと思う。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学近辺のホテル。日本人の参加者と相部屋だったが、非常に快適で文句のつけようがない宿泊先だった。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
沖縄のような気候であるため、日本人ならば比較的慣れやすい気候だと思う。交通機関・食事共に日本のように充実しており、快適だった。お金は現金のほかにクレジットカードも持って行った。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良く、心配する点は無かった。医療機関については何も調べなかったが、体調は崩さないように、早寝早起きは心がけた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
往復航空券:37,640 円、ホテル代:約 70,000 円、その他滞在費(食費・娯楽費等):約 30,000 円
計:約 140,000 円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO より 60,000 円が支給される予定

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
台湾大学の学生の案内のもと、台北市内の観光に出かけた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語が遅くても根気よく聞いてくれた他、楽しい雰囲気のもとプログラムが進行したため、特に不平もなく、快適だった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

Wi-fi も完備されており、図書館も出入り自由で概して快適であった。ただ、図書館の本を借りられるようにしていただければ更に良かった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

台湾大学×東大とは言いますが、実際は台湾人と日本人だけでなく、中国人も韓国人も東大の学生として参加しており、北朝鮮を除いた東アジアの人々がこぞって集結しているような印象を受けるプログラムで非常に面白く興味深いものでした。彼らとの国籍を超えたコミュニケーションを通じて、同じ東アジアとしての共通項を数多く見いだせた一方で、歴史認識問題等の根底に横たわる夫々の価値観の相違などもまざまざと見せつけられ、東アジア友好への道の険しさを実感させられた、しかし、その実現の重要性をはっきりと認識することが出来た、非常に有意義な3週間でした。

また、本プログラム参加の当初の目的であった英会話の上達と英語学習へのモチベーションの向上は、台湾学生とのコミュニケーションの中で達成できたと思います。本プログラムを機に、英会話の難しさと、それを成し遂げた時の爽快感を学ぶことが出来たので、自分の中で、来年計画している長期留学へのモチベーションが高まっているのを感じています。その点でも本プログラムは素晴らしいものであったと思います。

②参加後の予定

今回のプログラムで、留学の具体的なイメージが構築できたので、この経験をもとに来年の長期留学に向けて計画を練っていこうと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外に少しでも興味があるのなら、とにかく早く留学を体験するべきです。視野を広げるなら、早ければ早いほど将来の可能性が広がります。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Global のウェブサイト、Facebook での情報

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。